

ハチ博士の ミツバチコラム

15



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

重箱式巣箱

セイヨウミツバチの巣箱には規格化された巣板付きの箱型が用いられるのに対し、ニホンミツバチの巣箱は養蜂家の好みによって多種多様です。丸太をくり抜いたものや、縦型や横型の直方体の箱状のものが良く使われていますが、私達が使っているのは重箱式の巣箱です。

底板を外した重箱状の箱に針金で十字形の落下防止を付けたものを3、4段重ねて、天井に巣板がしっかりと固定できるように工夫した蓋をかぶせ、一番下の重箱の下にミツバチが自由に入入りできる巣門を付けたものが重箱式巣箱です。重箱や蓋がずれない様

に全体をロープやガムテープで固定すれば、ミツバチ達が好む大木の洞(うろ)のような空間を持つ巣箱の出来上がりです。この巣箱に分蜂群を移すと、まず天井に何層かの巣板が形成され、群の成長と共に下へ、下へと伸びて行きます。元気な群では春に入った分蜂群が、秋には高さ15センチの重箱4、5箱分も成長します。

天井に近い部分は蜂蜜貯蔵

庫で、その下に子育てゾーンがあり、更にその下には働きバチ達のたまり場があります。巣箱から蜂蜜を採取するには、重箱の隙間に細身の包丁などを差し込み、

最上段の重箱を切り取ります。巣が重箱4段分ほどに成長していたら最上段はハチミツで満タンです。切り取った重箱の巣板に残っているミツバチを元の巣の方に追い返して、巣板に切れ目を入れて滴り落ちるハチミツを集めます。上手くやれば、巣の中の働きバチ達に気付かれることなく、ミツバチをほとんど犠牲にせずに数キロのハチミツを採取する事ができます。コツコツ貯めた蜂蜜を横取りはするが、ミツバチの犠牲は殆ど無かった、というのが蜜盗人としての弁解です。



イラスト おおくぼひとみさん